

Course number		U-LAS03 10006 SB48					
Course title (and course title in English)		外国文献講読（法・英）I-E1 Readings in Humanities and Social Sciences (Law, English)I-E1			Instructor's name, job title, and department of affiliation		Graduate School of Law Program-Specific Associate Professor,KAMIDE HIROKO
Group	Humanities and Social Sciences		Field(Classification)		Readings in Humanities and Social Sciences		
Language of instruction	Japanese		Old group	Group C		Number of credits	2
Number of weekly time blocks	1	Class style	Seminar (Face-to-face course)		Year/semesters	2025・First semester	
Days and periods	Mon.4		Target year	2nd year students or above		Eligible students	For all majors
[Overview and purpose of the course]							
<p>この授業は、法と心理学にかかわる英語の専門文献（The Oxford Handbook of Psychology and Law）を精読することにより、そこでの議論に関する基礎的知識を身につけるとともに、英文の内容を理解したうえで正確に日本語へと翻訳する能力を養うことを目的とするものである。（購読する文献の詳細箇所は、教科書の項目に記載している。）</p> <p>具体的には、法と心理学の学際領域における研究の進め方や実証研究、応用研究について取り上げた英語文献を輪読する。</p> <p>授業内では、あらかじめ講義までに該当箇所の英文の内容を理解しておくことを前提とし、その場で順次指名された受講者が指定された文章を口頭で翻訳し、それに対して教員がコメントや補足を行うとともに、訳文担当者も含めた受講生全体で、内容や訳語に関する質疑応答や議論を行う。</p> <p>翻訳にあたっては、ただ英語を日本語へと逐語的に移し替えるのではなく、文献の内容を自分の頭で整理・把握したうえで、どのような日本語を当てるべきか、吟味したうえで翻訳することが望まれる。</p>							
[Course objectives]							
<ul style="list-style-type: none"> ・専門的な英語文献を正確に理解しつつ、その内容を自分なりによく整理したうえで適切な日本語を用いて表現できるようにすること。 ・法と心理学の学際領域研究の進め方や研究内容について理解し、考察できるようにすること。 							
[Course schedule and contents]							
<p>用いる文献は講義の1週間前までにPandAにPDFをアップロードするため、受講生の側で準備をする必要はない。第1回目の講義までに資料をダウンロードし、最初の2ページを読んでおくようにすること。</p> <p>第1回 文献の紹介と授業の進行計画の説明、文献読解と検討を行う。</p> <p>第2回～第14回 文献読解と検討</p> <p>第15回 フィードバック（具体的方法は別途指示する）</p>							
[Course requirements]							
外国文献講読（法・英）は専門への導入コースなので二回生以上を対象とする。							
[Evaluation methods and policy]							
平常点評価（授業への参加状況、提出された訳文の内容や授業内での発言、質問への応答：50%）とレポート（50%）にて評価する。							

Continue to 外国文献講読（法・英）I-E1(2)							

外国文献講読（法・英）Ⅰ-E1(2)

講義での訳文の内容を評価するにあたっては、原文を正確に理解したうえで、適切な日本語に翻訳されているかを一義的な評価基準とするが、全てを完璧に理解した上での訳文作成を求めるわけではない。訳文作成中に生じた疑問点や分からなかった点などがある場合、これらを整理・明示することは積極的に評価する。

レポートにおいては、英語文献のレジюме作成と講義内容に基づく論点整理の記載を課題とする。

以下の場合、自動的に単位を認定しない。

- ・ やむを得ない理由なく、4回以上欠席した場合
- ・ レポートにおいて、なんらか授業内で理解を深めたり、自分なりに考えたりした痕跡が見られない場合

（例、論点整理について授業内で指摘したポイントを全く押さえられていない場合など）

詳細については、授業内で説明する。

[Textbooks]

講読箇所についてはコピーを配布するため、受講生の側で準備をする必要はない。

購読する英語文献と購読する箇所は、The Oxford Handbook of Psychology and Law(David DeMatteo and Kyle C. Scherr)の、Chapter 3: Preventive Justice (Christopher Slobogin)と、Chapter 4: Expert Psychological Testimony (Brian L. Cutler and Daniel A. Krauss)である。

[References, etc.]

（References, etc.）

Introduced during class

[Study outside of class (preparation and review)]

予習としては、講読予定箇所と提出された訳文を事前に確認し、疑問点やコメントを考えておくこと。

復習としては、講読した箇所の内容について、自分なりに整理し、説明できるようになっておくこと。

[Other information (office hours, etc.)]

この科目は法学部生を対象に開講される科目です。履修人数に余裕があれば、法学部以外の学生も履修することが可能ですが、法学部事務室で事前申込が必要です。詳細は履修（人数）制限に関するお知らせで確認してください。